鉄の杖の王国

1. 鉄の杖の王国を作る

鉄の杖の王国 の構成

第一章
神様の王国と王権

- ✓ 王国の福音
- ✓ 民主主義ではない王国
- ✓ 鉄の杖で統治する王国
- ✓ キリストの共同相続人
- ✓ 平和軍・平和警察の王国

第二章
政治サタン主義

- ✓ 社会主義・共産主義の本質
- ✓ 世界を支配したロスチャイルド
- ✓ サタンと君臨するカトリック教会
- ✓ 政治サタン主義における支配
- ✓ 文化相対主義などによる支配

第三章
王国の主権復帰

- ✓ キリスト教徒を取り戻す
- ✓ 未来の世代を取り戻す
- ✓ 鉄の杖の権威で主権を取り戻す
- ✓ 銃器所有を守る

第四章
王国の統治

- ✓ 国民が責任を負う
- ✓ 自由と責任で発展する
- ✓ 抑制と均衡
- ✓ 平和軍・平和警察
- ✓ （次の世代の）教育

第五章
7年以内に王国を作る

- ✓ 王と王妃による祝福式
- ✓ 言論における左派の攻撃
- ✓ 米国の保守の戦い
- ✓ 政治サタン主義から王国を守る
- ✓ 鉄の杖の王国を作る

トランプ大統領の時代に左派に勝つ

ロマ書8:17　**もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。**

　皆さん、彼らはこれが一番怖かったのです。成約時代の神様の所有権者、神様の王権と王と王妃達のパワー、つまり王冠と鉄の杖のパワーを恐れます。骨の髄まで深く震えています。

　トランプ大統領の就任中にキリスト教徒が鉄の杖神学を学び、王冠や鉄の杖を持ち、祝福を受けて結婚して成約時代のキリスト教徒になれば終わりです。米国を掌握出来ません。米国を掌握出来ないので、欧州にある国々を支援して彼らを育てることが出来ます。

（鉄の杖の王国8 2018/3/14）

支配と権威に対して獅子のように戦う

支配と権威の戦いに自信を持って臨む

キリストはサタンを追い払っています。聖職者の３分の１は戦っていません。キリストはサタンと戦い、支配と権威と戦っています。悪となった人々の背後にある勢力と戦っています。**私達の戦いは血肉との戦いではなく、支配と権威との戦いです。**

見て下さい。キリストは戒めました。強いのです。霊に取りつかれて苦しめられている人がいました。キリストは強い態度を続けました。その人の枕元に立って熱が引くように命じます。熱に叱責しました。「すみませんサタンさん、出てもらえますか」などというものではありません。「**出ていけ！**」とサタンを叱りつけたのです。キリストは強く攻撃的で力強い態度を取っていました。言うまでもなく、社会の人々を癒していました。しかしそこには凄まじい力と権威がありました。揺るぎない自信がありました。自分を美化するのではありません。「私は完璧だ、私は神だ」ということではありません。それは妄想であって自信ではありません。

自信は適切な訓練から来ます。現実世界での応用に近付くと出て来るものです。訓練を全てやっても常に疑問を持ちます。固まってしまわないかと。その瞬間に自信を持っていなければなりません。

（鉄の杖の王国15 2018/5/13）

獅子の如く勇敢でなければいけない

箴言28:1　**悪しき者は追う人もないのに逃げる、正しい人はししのように勇ましい。**

　鉄の杖のパワーが政府にだけ、中央警察と中央軍隊の手にあってはいけません。一般の市民、氏族の王と王妃の手中になければいけないのです。
このようなパワーが市民にあれば、中央政府が出て来ることもなく、悪の社会主義、共産主義、サタン主義は生まれられません。羊が牧羊犬になるだけでなく、箴言28章の獅子にならなければいけません。義人が獅子の如く勇敢でなければいけないのです。

　天一国の王国では、一般市民は羊ではなく獅子です。氏族の王と王妃は獅子です。なぜでしょうか？**キリストを象徴する動物は獅子です。**ユダ族の獅子。キリストと共に立ち上がって神様と共に王国を守る氏族王と王妃は何ですか？箴言28章に出てくる獅子です。

　義人は獅子のように勇敢でありなさい。大胆でありなさい。皆さんは狼に捕まってしまう羊ですか、それとも箴言28章にある獅子のように大胆な義人ですか。

（鉄の杖の王国19 2018/6/27）

獅子は歯と爪があるので狼に勝つ

獅子は歯がすべて抜けても獅子ですか？獅子の歯と爪をすべて抜いてしまったら、狼は獅子を殺せますか？殺せます。獅子の歯を抜いて爪を抜けば、狼は獅子に勝つことが出来ます。だから獅子に歯と爪があってこそ、武器があってこそ狼は身動きが出来ません。ハイエナも身動き出来ません。

どういうことでしょうか？天一国では、市民は氏族王と王妃として鉄の杖を主管するのです。鉄の杖と、戦うための本当の武道の訓練をします。

（鉄の杖の王国19 2018/6/27）

やくざが勝てない王国

やくざは見るからに悪い奴なので、実際はやくざの方がまだましです。大部分の政治家は良い人のふりをしながら邪悪なやくざのシステムを執り行います。詐欺師はそのシステムの中で市民の築いた成功を盗んで行けるのです。やくざは隠さないので、町で誰がやくざなのか分かります。

市民が銃器を持ってやくざと戦えばやくざが死にます。市民の方が多く、やくざが勝てない環境だからです。市民が大きな鉄の杖や小さな鉄の杖を持っているのでやくざは勝てません。

市民の王と王妃が陣頭指揮をすればやくざは罰を受けて死にます。私の隣人がやられればすぐに出て行って隣人のために戦うのです。

（鉄の杖の王国19 2018/6/27）

なぜ鉄の杖（銃器）を所有するのか？

キリストが武装を命じられる

「ルカによる福音書」より

ルカ9:1-6　**それからイエスは十二弟子を呼び集めて、彼らにすべての悪霊を制し、病気をいやす力と権威とをお授けになった。また神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすためにつかわして言われた、「旅のために何も携えるな。つえも袋もパンも銭も持たず、また下着も二枚は持つな。また、どこかの家にはいったら、そこに留まっておれ。そしてそこから出かけることにしなさい。だれもあなたがたを迎えるものがいなかったら、その町を出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足からちりを払い落しなさい」。弟子たちは出て行って、村々を巡り歩き、いたる所で福音を宣べ伝え、また病気をいやした。**

ルカ22:35-38　**そして彼らに言われた、「わたしが財布も袋もくつも持たせずにあなたがたをつかわしたとき、何かこまったことがあったか」。彼らは、「いいえ、何もありませんでした」と答えた。そこで言われた、「しかし今は、財布のあるものは、それを持って行け。袋も同様に持って行け。また、つるぎのない者は、自分の上着を売って、それを買うがよい。あなたがたに言うが、『彼は罪人のひとりに数えられた』としるしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している」。弟子たちが言った、「主よ、ごらんなさい、ここにつるぎが二振りございます」。イエスは言われた、「それでよい」。**

武器を取れと言われたキリスト（１）

ルカ９章がルカ22章とどういう繋がりがあるかについて話しました。キリストが弟子達をどのように訓練するかということです。何も持たせずに彼らを行かせました。しかしキリストが十字架に付けられようとする時、ルカ22章でのことですが、ルカ9章でのことを22章で提示しています。２週間前に見た内容です。

「君達を送り出した時には何も持たせなかったのを覚えているだろうか」、そして「**今は自分の外套を売って剣を買って欲しい**」と言います。それは軍隊で使うような武器のことです。「**君たちに武装して欲しい**」というのがルカ22章で見た内容です。

だからルカ9章と10章のこの聖句がルカ22章の聖句と繋がりがあるというのは、ルカ22章でこれらの聖句に言及しているからなのです。どういうことか分かりますね。キリスト自身がそれらを繋いだということです。

キリストは弟子たちを送り出します。「小羊をおおかみの中に送る」ように。そして平安を祈るようにという話をしています。これはとても大切な指針です。

（鉄の杖の王国21 2018/7/22）

武器を取れと言われたキリスト（２）

ルカ22章で私達は聖書の教えを見ることが出来ます。イエス様が服を全て売ってまで剣を買いなさいと言われました。剣はその当時軍隊が使用する武器です。今の軍隊を見て下さい。軍隊が剣を使いますか？使いません。今の軍隊の剣は何ですか？AR-15です。そして小さな剣、拳銃です。

今、イエス様がこのようにおっしゃるのと同じです。「しかし今は、財布のある者はそれを持って行け。袋も同ように持って行け。また、**鉄の杖のAR-15のない者は自分の上着を売ってそれを買うがよい**」そうおっしゃったのです。**剣は、その当時戦争で実際に戦う兵器だった**のです。

（鉄の杖の王国19 2018/6/27）

なぜ鉄の杖（銃器）を所有するのか？

（王権を守るために）王として武装する

武装は王の権利

過去の王と王妃は恵まれていました。何に恵まれていたのでしょうか？

領地と私有財産に恵まれていました。それから納税が免除されていました。その他はどうでしょうか？

自身の王国を守る権利に恵まれていました。それこそが、私達が米国で言っている武器を所持する権利です。サタン世界の歴史の中で、王は常に武装して軍隊を持っていました。

（鉄の杖の王国10 2018/3/25）

なぜ鉄の杖（銃器）を所有するのか？

王国を統治するために武装する

鉄の杖による統治に葛藤する

黙示録2:27　**彼は鉄のつえをもって、ちょうど土の器を砕くように、彼らを治めるであろう。それは、わたし自身が父から権威を受けて治めるのと同様である。**

「彼は鉄のつえをもって、ちょうど土の器を砕くように、彼らを治めるであろう」とあります。キリスト教徒ならこの聖句を避けて通ることは出来ません。キリスト教徒達！鉄の杖を避けて通ることは出来ません。あなた方はそこから逃げています。そこから逃げることは出来ません。これは聖句です。天国の王の統治の方法です。鉄の杖をもって彼らを治めるというのです。

「それは、わたし自身が父から権威を受けて治めるのと同様である」クリスチャンがこの鉄の杖の聖句を読む時怖れを抱きます。最初は良いのです。キリストが悪を一掃するのですから。ヒラリー・クリントンやジョージ・ソロスのような者達を一掃する。それは喜ぶのです。しかし鉄の杖で治めるとなると心の内で葛藤するのです。葛藤です。

（鉄の杖の王国１　2017/12/31）

統治するとは保護すること

ポイマイノ（Poimaino）。一度言ってみましょう。ポイマイノ。万国を鉄の杖で治める男子が生まれたとあります。治めるとはポイマイノです。治めるというのは韓国語の聖書の訳です。「ポイマイノ」を「治める」と翻訳したのです。

では、ポイマイノとはどのような意味ですか？羊を飼うという動詞です。羊飼いが羊の世話をすることをポイマイノというのです。一般のクリスチャンは、主が再び来られて神様の王国を建てられた時、万国を鉄の杖で治めると聞いているので、暴君のように治めると考えました。（中略）

黙示録2:27に出てくる単語。また黙示録12:5にも出てくる全く同じ単語。黙示録19:15にも現れる単語は何ですか？**ポイマイノです。その言葉は治めるという意味ですが、深い意味は何でしょうか？羊飼いのように羊の世話をするという意味です。保護するということです。**万国を鉄の杖で保護する、感じが少し違いますね？治めるというのは鉄の杖で保護することです。

（鉄の杖の王国６ 2018/2/27）

鉄の杖の王国が銃器所有者の心を解き放つ

私がでっち上げたものではありません。神様は明確にその王国を定義しています。王国が何かを示しています。

銃器所有者は全員分かります。本当に迫害されて来て何十年も堅く決意して来ました。心情で分かっています。彼らが鉄の杖の話を聞くと、心の中で何かが解放されます。そしてこう言います。「今まで自分はミニストリーを受けたことがなかった。自己防衛者として、また必要があれば他人のために死ぬ覚悟をした者として、自分の心の中で真実だと分かっていた事を言われたことがなかった」と。

しかし**鉄の杖の話を聞いた時、ポイマイノが治めるということだと聞いた時、国を守りその面倒を見るという話を聞いた時、また天一国と神様の王国の憲法を見た時、王国がどういうものか理解出来ます。共同の相続ということを理解し、王権を理解します。軍備のことを理解します。鉄の杖による統治を理解します。**彼らが知っていることは全て本当です。

（鉄の杖の王国21 2018/7/22）

なぜ鉄の杖（銃器）を所有するのか？

そのような **アベル型キリスト教徒** が武装すれば･･･

市民が立ち上がれば王国が勝利する

抑圧された奴隷のように、２級市民のように扱われる普通の市民が虐げられた人達であり、心の中では分かっているのですが、社会やエリートが押し付けるよりも大きな役割を持っています。

彼らが一旦キリストにおける自らのアイデンティティを知って自分が誰であるかを理解すれば、そしてキリストとその王国と王権と、その憲法と共に立てば、キリストがなぜこのようなものを準備されたのか理解するのです。

彼らは勇気と確信を持って立ち上がり、慈悲と愛情と、そして悪なる勢力に抵抗する力と権威を持って立ち向かいます。悪は滅びて神様の王国が勝利します。

（鉄の杖の王国11 2018/4/1）

ゲリラのように戦って国を作る

プリンストンの戦い（独立戦争）
（1777年1月 ニュージャージー州）

画像：https://ja.wikipedia.org/wiki/プリンストンの戦い

中央集権の弱みを撃つ

英国は中央集権の大きな強大国でした。1790年代には全世界を征服しました。英国が全世界のほぼ３分の１を取ったのです。それで世界で一番大きな軍隊がありました。しかし、**あまりにも中央集権組織だったので、戦う時に責任者が殺されると部下は何も出来ませんでした。**将軍を殺されると部下達はどうして良いか分からず混乱しました。いつも命じられて動くからです。自由と責任でゲリラのように戦うことを知りません。

米国の市民は個人で土地を所有し、銃も所有していました。また、原住民や先住民の戦い方も学んでいました。**彼らは個人が全責任を負って戦うのです。**あちらこちらに隠れて分散して戦うので、組織的な軍隊が戦うと予想以上に難しかったのです。どうなったでしょうか？**米国の市民軍は英国の将校を狙って先に殺し、その次に部下達と戦ったので、少数ながらすべて勝利しました。**

中央集権の政府と軍隊は勘違いしていました。数が多いので楽に勝てると思っていました。数だけは多いのです。お互いの顔を見ながら数が多いので大丈夫だろうと思っていました。

（鉄の杖の王国8 2018/3/14）

市民がゲリラのように戦えば軍隊も敵わない

米国軍も中央集権の組織だったので、ベトナムで戦う時は大変苦労しました。それはベトナムの市民がゲリラ戦をしたからです。隠れられる洞穴など、その地域を完全に把握しているので戦うのは更に難しくなります。

FBIとCIAが、ここペンシルベニア州に来てエリック・フランという男を捕まえようとしましたが、３か月かかりました。たったひとりを捕まえるためにです。彼はひとりの警察官を撃ち殺して森の中に逃げました。ここからすぐ近くのブルーミング・グローブで３か月もかかったのです。全国から支援してFBIのトップチームがここに来ても、3か月かかりました。

考えてみて下さい。**ここにいる１万の市民と戦わなければならない、ここにいる10万の市民と戦わなければならないとすれば、それは不可能です。米国のあちらこちらで市民が立ち上がれば、そのすべてとどのように戦いますか？米国政府の軍隊は400万人です。銃器を所有するアメリカ市民は３億４千万人です。**

（鉄の杖の王国8 2018/3/14）

銃器所有は天一国創建の核心

銃器所有は天一国創建の核心

市民の１％だけを考えても、どのようにその人達と戦いますか？そのように考えれば、実際、中央政府は思うように出来ません。このようなパワーバランスがあってこそ、中央政府が暴君のように振る舞わないのです。

米国の銃器所有はそれほどまでに核心的です。それがなければ市民は動物レベルになります。余りにも簡単にコントロールして殺せるのです。数万人を殺せば全員頭を下げて「はい、言う通りにします」となります。政府と戦う力がありません。

それで左派の奴らは何としてもAR-15を禁止しようとします。禁止すれば一般市民も女子も怖くありません。半分だけでも合理的に考えれば理解出来るのに、左派は市民が考えられないようにしています。

（鉄の杖の王国8 2018/3/14）

市民が銃を持てば暴君も敵わない

それほど銃が重要です。**キリストと共に、市民に万国を治める銃がなければ、神様の王国で邪悪な左派社会主義、共産主義の暴君、大虐殺者が立ち上がります。市民に王の権利と銃の所有権があれば、暴君も大虐殺者も詐欺師の奴らも勝てません。**

お爺さんやお婆さんも銃を持てば、その家は完全に恐ろしい家になります。若い奴らが20～30人いても、その家を侵犯出来ません。お爺さん１人だけ生き残っていても。障害者が１人で住んでいるところにAR-15があれば、20～30人の犯罪者が入って来ても勝てません。

左派の奴らはコントロールを追求するので、このようなパワーバランスが嫌いです。市民農業をしたいのです。自分は働かずに人から盗む泥棒です。

（鉄の杖の王国8 2018/3/14）

Appendix

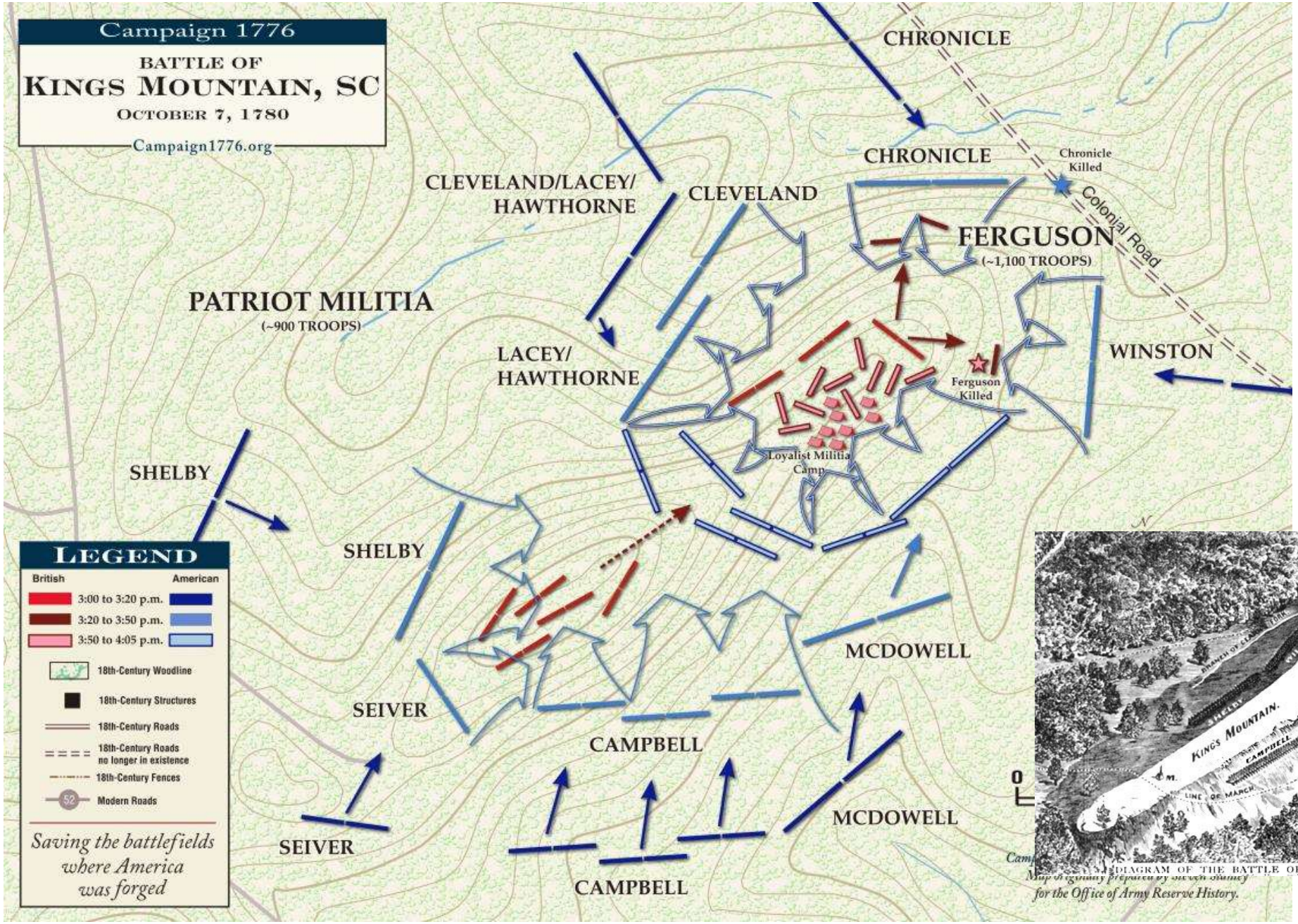
キングスマウンテンの戦い（1780年10月　ノースカロライナ州）

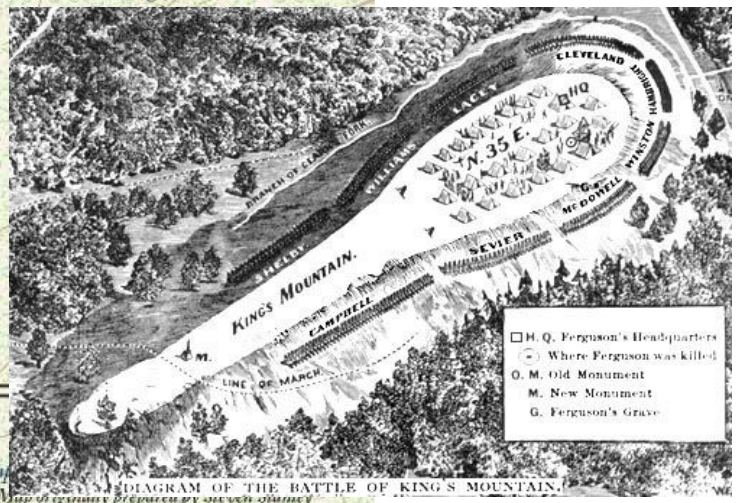
画像：http://warhistory-quest.blog.jp/18-Apr-11

指揮官のファーガソンは馬に乗って丘を前後に行き来し、戦闘の合図である銀の笛を吹き鳴らしていた。彼は死に物狂いになって士官上着の上に格子縞のシャツを羽織った。独立派兵士の一人がこれを目敏く見つけ、即座に同僚の注意を喚起した。多くの独立派兵士のライフル銃がファーガソンを襲い、ファーガソンは鞍から落ちて死んだ。指揮官の戦死を目の当たりにした王党派兵は戦意を失い、武器を挙げて降伏を始めた。

キングスマウンテンの戦い

画像：http://warhistory-quest.blog.jp/18-Apr-11





EOF